

ワーキンググループ（教育内容策定部会）における検討内容

開催日	検討内容
【第1回】 令和6年5月8日 ※企画広報部との合同開催	◇具体的な「目指す子ども像」について協議 ○山添村の子どもたちの強みや弱みは？（山添村の子どもたちの現状） ・素直で人懐っこく真面目な子どもたち ・先生の指示に対してコツコツがんばろうとする子どもたち ・固定化されやすい人間関係がゆえに変化したくても変化できない子どもたち ・都市部では当たり前を経験することが当たり前ではない環境にある子どもたち ・学校内(学校教育)だけでは「子どもの育ちに必要な条件(豊かな経験、社会とのつながり)」が担保できない状態にある子どもたち ○自分のいる世の中をよりよくできる子どもとは？ ・自分をもっている子ども ・多様性を認められる子ども ・「知りたい」というアンテナを常にもっている子ども ・自分から情報を取り入れていける子ども ・自分の思いを表現できる子ども ・自分のことを理解できる子ども ・他者を思いやることができる子ども ・平均にプラスワンできる子ども ・「とりあえず、やってみる!」ができる子ども ・課題を見出せる子ども ・コミュニケーションがしっかりとれる子ども ・考えを言葉にできる子ども ・自分を大切にできる子ども
【第2回】 令和6年6月19日 ※企画広報部との合同開催	◇「目指す子ども像」を実現させるためにどのような教室配置や設備等が必要なのかについて協議 →協議した内容について施設建築設計部に提案 ◇義務教育学校の校名募集に係る募集要項及び応募用紙について確認 →募集要項及び募集用紙は「広報やまぞえ（9月号）」に折込 →山添つながりアプリ「めえめえ」の活用
【第3回】 令和6年7月31日 ※企画広報部との合同開催	◇どのような「特色ある教育」ができるかについて協議 →グループ担任制及びチーム担任制 →イエナプラン教育（自由進度学習）
【第4回】 令和6年9月4日 ※企画広報部との合同開催	◇教科担任制の教科及び実施方法について協議 ○基本的な考え方 →児童生徒の実態を踏まえ、学級担任制のよさと教科担任制のよさを兼ね備えた指導体制を構築することが重要である →義務教育学校前期課程における教科担任制の導入を検討するにあたっては、導入のねらいを明確にした上で、そのねらいの達成につながる具体的な計画や体制整備を行う必要がある。

	→前期課程から後期課程への円滑な接続を図る観点から、学年が上がるにつれて段階的に関わりを持つ教員の数が増えていく指導体制を整えていく。 ○教科担任制について（案） →１～２年生は学級担任制を基本とし、３～６年生において教科担任制を部分的に導入する。 →７年生以上は教科担任制を基本とする。 →各教員の持ちコマ数と校務分掌とのバランスを考慮し、相互乗り入れ指導を考える。
【第５回】 令和６年１０月２３日	◇独自教科につなぐ総合的な学習の時間の検討 ○「やまぞえ学」のコンセプト →「やまぞえ学～結プロジェクト～」 →「社会に開かれた教育課程」の実現
【第６回】 令和６年１１月２０日	◇独自教科につなぐ総合的な学習の時間の検討 ○全体計画の検討・作成 ○年間指導計画一覧の検討・作成
【第７回】 令和７年１月１５日	◇独自教科につなぐ総合的な学習の時間の検討 ○小学校、中学校における現在の取組を基に全体計画をまとめる。
【第８回】 令和７年２月１２日	◇独自教科につなぐ総合的な学習の時間の検討 ○９年間を見通した全体計画としていかにつなげていくかを協議 →地域学習としての柱 →キャリア教育としての柱 →国際交流としての柱 ※次年度から９年間の学びのつながりを意識した取組を実施していく。